様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１８６４７

研究課題名（和文）総合大学における汎用ポートフォリオ評価システムの開発による教職カリキュラムの改善

研究課題名（英文）Improvement of Teacher's Curriculum by Development of General Purpose Portfolio Evaluation System in University

研究代表者
間瀬　茂夫（Mase, Shigeo）

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：９０２７４２７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,900,000円

研究成果の概要（和文）：総合大学における教職カリキュラムとポートフォリオ評価の実態については、三つの大学への実地調査を通して、類型別に課題がとらえられたが、ポートフォリオ評価を軸とした教職カリキュラム・モデルの提示にまではいたらなかった。また、総合大学の教師教育において有効に機能する、学生の自律と協同を中心とした汎用的な教職ポートフォリオ評価システムの開発については、専用にシステムの開発に依存せず、多くの大学で導入する汎用的な学習支援システム（LMS）を活用することで実現可能であることを確認した。教職ポートフォリオ評価の効果については、電子的なポートフォリオと実物ポートフォリオとを併用することの可能性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
教員養成段階における教員免許の質を保障し、社会における教員への信頼を回復することを意図して設定された「教職実践演習」は、実施から７年度目を迎えた。本研究では、ポートフォリオ評価という観点から、卒業年次の「教職実践演習」に至るプロセスを記録し、蓄積し、評価するための種々のシステムの各機能の相互関連性、統合可能性を検討し、電子的ポートフォリオと実物ポートフォリオを併用する効果について検証した。

研究成果の概要（英文）：In terms of the actual status of teacher curriculum and portfolio evaluation at universities, we identified problems in each category through field surveys at three universities, but we did not go as far as to present a teacher curriculum model based on portfolio evaluation. It was also confirmed that the development of a general-purpose teacher portfolio evaluation system focusing on student autonomy and cooperation, which effectively functions in teacher education at universities, is feasible by utilizing a general-purpose learning support system (LMS) that will be introduced at many universities, rather than relying on the development of a dedicated system. As for the effect of teacher portfolio evaluation, the possibility of combining an electronic portfolio with a real portfolio was shown.

研究分野：国語教育学

キーワード：教員養成　教職課程　ポートフォリオ評価　総合大学　教職実践演習　教師像　反省的実践家

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

我が国における教員養成改革の動きの中で、免許取得時における教員の質保障という観点から、平成 22 年度入学の学生から、卒業年次での「教職実践演習」が必修化された。広島大学における「教職実践演習」の実施は，平成 25 年度のはじめての実施から平成 28 年度で４回を数えた。「教職実践演習」の実施決定と同時に、免許取得までの教職課程の学習プロセスをエビデンスとして記録するポートフォリオ評価が各大学で実施された。広島大学の「教員免許ポートフォリオ」は，ネットワークを活用したものでとして平成 23 年度のシステムの本格運用開始から６カ年が経過した。こうした中で、次のようなポートフォリオ評価に関わって、次のような課題が浮かび上がってきた。

一つ目は、大学における教員養成と現職教員研修の拡充と評価システムの連続の必要性である。大学における教師教育は、教員免許を取得させる教員養成の段階から、教職大学院など現職教員の再教育にまで拡充してきたが、そこでの学習評価システムは、例えばポートフォリオ評価のように、一貫性、連続性のあるものにすることでキャリア形成の可能性が広がるのではないか。

二つ目は、「教職実践演習」に至る評価システムの更新の必要性である。教員免許の質保障のために導入された卒業年次の必修科目「教職実践演習」は、授業の開講から４年度、準備過程を含めると７年度目を迎え、当初構築したカリキュラムや評価システムを更新する必要が全国の大学において生じている。

三つ目は、総合大学における学生の自律性と協同性を中心とした教職評価システムの必要性である。教員養成学部は、各コース単位でのカリキュラム改善が可能であるのに対し、総合大学では、カリキュラムの維持や学生の学習の管理すなわち教務中心の評価となる傾向にある。教員になる学生の自律や協同のプロセスを中心とした教職評価システムの構築が必要である。

本研究は、総合大学における教員養成に関するこうした課題把握を背景としてスタートした。

２．研究の目的

教師教育は、教員免許の取得を目的とした学部の教員養成段階のみならず、教職大学院等における現職教員の再教育にまでその枠組みが拡大してきた。ところが、総合大学の教員養成学部以外の学部の教師教育は、中学校・高等学校現場に多くの人材を輩出しているにもかかわらず、教員免許に必要な授業単位を修得させることにとどまる傾向にあり、専門家教育のモデルとされる反省的実践家として学生を教育するという面については十分ではない。その原因は教育組織の面ばかりでなく、学生自身がそのような教師像を持ち自らを振り返る機会や手立てに欠けるという、教職カリキュラムにおける評価のあり方に求められる。そうした役割を果たすのは、学生が自らの学習プロセスを評価することを促すポートフォリオ評価であるが、そのシステム化について、全ての総合大学が独自に開発するのは難しい。

こうした問題の把握から、本研究は、総合大学の教職カリキュラムにおける教育評価の方法として、各大学が共通して用いることのできる汎用的な教職ポートフォリオ評価システムを開発するとともに、学生の学習に対する効果とカリキュラムおよび教育組織へのフィードバック機能の有効性について検証することを目的とし、次の研究課題に取り組むことにした。

(1)総合大学と教員養成学部における教職カリキュラムとポートフォリオ評価の実態について調査を通して問題点を明らかにする。

(2)総合大学におけるポートフォリオ評価を軸とした教職カリキュラムのモデルを構築する

(3)総合大学の教師教育において有効に機能する、学生の自律と協同を中心とした汎用的な教職ポートフォリオ評価システムを開発する。

(4)汎用的な教職ポートフォリオ評価システムおよびカリキュラムの学生に対する教育効果を検証する。

(5)汎用的な教職ポートフォリオ評価システムが、教職カリキュラムおよび教育組織に対してどのような評価機能を持つかを検証する。

３．研究の方法

上述した研究の目的および研究課題に取り組むため、次の研究の方法をとることとした。

(1)教職カリキュラムにおけるポートフォリオ評価活用のモデル的検討

３つの実態調査をもとに教職カリキュラムの類型化を行うとともに、優れた類型からモデル的な検討を行い、その中に教職ポートフォリオ評価を位置づける。そのうえで学生および教育組織に対するフィードバック機能の有効性について仮説を立てる。

(2)海外における実態的調査

海外の大学（ドイツ）における調査を行い、教職カリキュラムにおけるポートフォリオ評価の位置づけに関する実態と、優れた教職カリキュラムの特徴を明らかにする。

(3)教職ポートフォリオ評価システムの開発

汎用的な教職ポートフォリオ評価システムの基本設計を行い、研究協力者であるシステム開発会社とともに基本システムを開発する。

(4)新システムの試験的導入と効果の検証

特に広島大学においては、新システムの導入による、学部の各教員・実習運営委員会やポートフォリオ実行委員会といった教育組織、附属学校の教員への効果を検証する。

４．研究成果

4．1　実態調査による成果

教員の養成を行っている総合大学の中から、ア私立の教育学部を持たない研究型総合大学として慶應大学、イ国立の非教員養成系教育学部を持つ研究型総合大学として京都大学、ウ国立の教員養成系学部を持つ総合大学として島根大学の３大学を選び、訪問調査を行った。

①慶應義塾大学

慶應義塾大学における教員養成の特色や理念は「開放制」にある。それぞれの専門科学・ディシプリンを背景に持ちながら，留学経験や社会人経験などを経てから教職に就く卒業生も多く，卒業と同時に教職の道へというだけではない「教育」関係職への門戸を開いている点に特徴が見られた。各学部・学科の専攻と合わせて教職という「(副）専攻」を履修する「ダブルメジャー（複数専攻)」というコンセプトで，教職課程センターを中心として教職課程を提供していた。そのために，ネットワークシステム「教職ログブック」を開発・運用しているが、卒業後も登録が維持され，継続的に公開研究会などを介して卒業生ネットワークが構築され，ネットワークを通じて様々な情報が提供されるという仕組みをとっており，卒業後に教職に関心を持った卒業生への門戸を広く開いているとのことであった。ただ、「教職ログブック」は、ポートフォリオとしての機能を持つものではなく、ポートフォリオの導入が課題とされた。

②京都大学

京都大学の教職教育のデザインの中心には，「『学問する』教師」の育成を置いている。国内トップの研究型総合大学という強みをいかして，理論と実践，学問と教育の間のずれを意識しつつ「理論と実践の間を往還しながら，異なる文化の狭間で思考し，それらを実践場面において融合していく」実践的指導力の育成を目指すとしている。

「学問する教師」の育成を目指して，京都大学では，教師として求められる力量を五つの柱にわけて明確化し，その柱に基づいて学生一人ひとりが「教職課程ポートフォリオ」を作成することとしている。五つの柱とは、次のものである。

A：教職に求められる教養　　B：生徒理解と人間関係構築力
C：教科内容に関する知識・技能　　D：教科等の授業づくりの力量
E：課題探究力

これらの柱に沿って教職課程の学びのプロセスや成果物を蓄積していく。このポートフォリオは教職実践演習で活用することで，教員としての資質向上を図ることとなっている。ただし、ポートフォリオは実物によるポートフォリオであり、電子的なシステムは用意していないとのことであった。

③島根大学

島根大学教育学部の教職課程の特徴として、「プロファイルシート」という電子的なポートフォリオの存在が挙げられる。それ自体として教職課程を構造化して可視化する機能を有している。プロファイルシートは，履修した授業科目や体験した教育体験活動の記録の「客観的評価」，客観的な評価をもとに項目ごとの達成度を自分で評価する「自己評価」，客観的評価や自己評価を踏まえ，指導教員から各人に対して行われるコメントによる「他者評価」の三つからなる。客観的評価をレーダーチャート，棒グラフ・数値で，自己評価をレーダーチャートで，他者評価を文章で示し，「教師力の 10 の軸」として明示化した目標における達成度や状態を視覚化し，学生自身が教師力を身に付けるための記録として活用していく。

プロファイルシートの記入は卒業までの 4 年間に 3 回行われる。1 回目は，教養育成科目や専門共通科目から，主・副専攻科目への移行期である 2 年生前期の成績通知後に，2 年生前期までの評価が行われる。2 回目は，学校教育実習Ⅳ・Ⅴの後である 3 年生後期に，3 年生前期までの評価が行われる。3 回目は，4 年生の成績通知後に，4 年生前期までの評価が行われ，教職実践演習の計画に活かされる。そして，教職実践演習の後，4 年間の総括的な評価が行われる。

また，プロファイルシートを活用し，指導教員と学生の１対１（初等教育の場合，指導教員１名に対し学生 4 名程度）の面談を行う。学生自身の目標への近づきをプロファイルシートの各観点から検討し，その後の目標を定め，教職観の形成に活用する。ただ、こうした取り組みは、教育学部の学生のみを対象としたものであり、他学部学生のポートフォリオ評価をどう実施するかが課題となっていた。

4．2　海外の大学との比較調査による成果

ドイツザクセン州の研究型総合大学であるライプツィヒ大学において教職課程について調査を行った。教職課程のカリキュラムは以下の次の表の通りであった。この過程について、ポートフォリオによる評価は行われていなかった。

【表】ライプツィヒ大学における教職課程履修表

	初等教員養成			中等教員養成						特別支援学校教員養成		
				オーバーシューレ			ギムナジウム					
セメスター数	8セメスター			9セメスター			10セメスター			10セメスター		
単位	240LP			270LP			300LP			300LP		
領域と単位数	ヴァリエーション１			教科群１	教科群２	教育諸科学	教科群１	教科群２	教育諸科学	援助の重点	教科	教育諸科学
	教科	基礎学校教授学	教育諸科学	生物	化学	教育科学	生物	化学	教育科学	学習	基礎学校教授学のＡ～Ｄ	教育科学
	ドイツ語	A　ドイツ語あるいはソルブ語（25あるいは15LP）	教育科学	ドイツ語	倫理／哲学	教育心理学	ドイツ語	倫理／哲学	教育心理学	あるいは／または	あるいは	教育心理学
	ソルブ語	B　数学(25あるいは15LP)	基礎学校教育学	英語	フランス語		英語	社会科／職科教育／経済		情緒的・社会的発達	中等の諸教科	特別支援教育学
	数学	C　事物教授(25LP)	教育心理学	数学	社会科／職科教育		フランス語	歴史		身体的発達	基礎学校教授学のＡ～Ｄ	教育科学
		D　芸術・音楽・スポーツ・工作のいずれか(25LP)		物理	歴史		ラテン語	ギリシャ語		言語	あるいは	教育心理学
	50LP	90LP	40LP	ソルブ語	情報		数学	イタリア語			中等の諸教科	特別支援教育学
	ヴァリエーション２			スポーツ	芸術		物理	情報		知的発達	基礎学校教授学のＡ～Ｄ	教育科学
	教科	基礎学校教授学	教育諸科学		音楽		ソルブ語	芸術			あるいは	教育心理学
	英語	A　ドイツ語あるいはソルブ語（25LP）			ポーランド語		スペイン語	音楽			中等の諸教科	特別支援教育学
	倫理／哲学	B　数学(25LP)	教育科学		宗教		スポーツ	ポーランド語				
	芸術	C　事物教授(25LP)	基礎学校教育学		ロシア語			宗教				
	音楽		教育心理学		スペイン語			ロシア語				
	宗教				チェコ語			チェコ語				
	スポーツ											
	65LP	75LP	40LP	80LP	80LP	35LP	95LP	95LP	35LP	100LP	80LP	教育諸科学：教育心理学35LP、特別支援教育学35LP
	教育実習25LP、補足課題研究5LP、言語教育を含む身体-音声コミュニケーション5LP			教育実習25LP、補足課題研究15LP、言語教育を含む身体-音声コミュニケーション5LP			教育実習25LP、補足課題研究15LP、言語教育を含む身体-音声コミュニケーション5LP			教育実習25LP、補足課題研究5LP、言語教育を含む身体-音声コミュニケーション5LP		
	国家試験25LP			国家試験30LP			国家試験30LP			国家試験25LP		

4．3　実践における成果

（1）実物ポートフォリオの実施

広島大学の教職課程におけるポートフォリオ評価の改善として、下記のように教員免許ポートフォリオの再定義を行い、平成 28 年度から「抽出ポートフォリオ」を導入した。

ｅポートフォリオ…広大教員養成スタンダード８規準に対応してアップロードされた課題の履歴。部局・講座を越えて全教員が参照可能だが，まとまりを欠く。

実物ポートフォリオ…教員免許取得に関わる学生自身の学びの履歴のすべてを納めたもの。「教育実習録」や講義・演習，自主的な活動などすべてが対象。大学時代の学びの履歴すべてを納めるが，量が多くまとまりも欠く。

抽出ポートフォリオ…８規準に照らして必要な評価材のみを抽出して作成されたもの。学生の教育観を表現した「教育観（ティーチング・フィロソフィー）」および評価材の目録である「学びの履歴」があることで，ポートフォリオとしてのまとまりがあるが，作成に手間と時間がかかる。

また，次のように、ポートフォリオ評価の各段階における機能の整理を行い、「教職実践演習」において，教員免許ポートフォリオ（ｅポートフォリオ）に基づいて「抽出ポートフォリオ」を作成することの意味と目標を「学習ポートフォリオから教授ポートフォリオへの転換を目指すこと」と設定した。

学習ポートフォリオ…学習の成果を収めたもの。レポート，指導案，実習録，提出課題などを収める。

教授ポートフォリオ（ティーチングポートフォリオ）…教師が教育・授業の成果を収めたもの。シラバスや「教育観」，生徒の学習成果などを収める。

アカデミック・ポートフォリオ…研究と教育にかかわる成果を収めたもの。「教授ポートフォリオ」に収められるものだけではなく，研究業績やその成果物なども収める。

その上で、研究期間の三カ年に渡って、実践を蓄積し、電子的なポートフォリオと実物によるポートフォリオを並立させることの意味、効果を探究した。

（2）外部評価の実施

二年度目には、広島大学の共同研究組織である教育ヴィジョン研究センターとの共催により、公開セミナー「ポートフォリオ評価を軸にした教員の養成と教師教育者の養成」を開催し、京都大学の石井英真准氏を招聘して、広島大学の教員養成におけるポートフォリオ評価の取り組みについて外部評価を行った。石井氏は、広島大学のポートフォリオ評価や「教職実践演習」にもとづく教員養成の特徴を「観の自己形成」をゴールに設定していることと指摘した。広大教員養成スタンダードにおける規準を達成しながらも，それらを統合する価値や目的として「観の自己形成」があることで，教職課程を超えた実力の形成に向けて，カリキュラムの体系化が図られているとした。一方で，さらなる体系化のために，教職課程のヴィジョンをさらに明確化すること，広大教員養成スタンダードを構成する規準の合理性について検証すべきという問題提起を受けた。「観の自己形成」に果たすポートフォリオの役割は，学びの経験を物語的に再構成することにあり、それは日本の教師たちの実践記録を書く文化の復興にもつながり，教職のキャリアラダーのシステム化において評価資料として位置づけられるとした。

4．4　システム開発における成果

広島大学には、許員免許取得に関わって、次のような幾種類かのシステムが存在する。

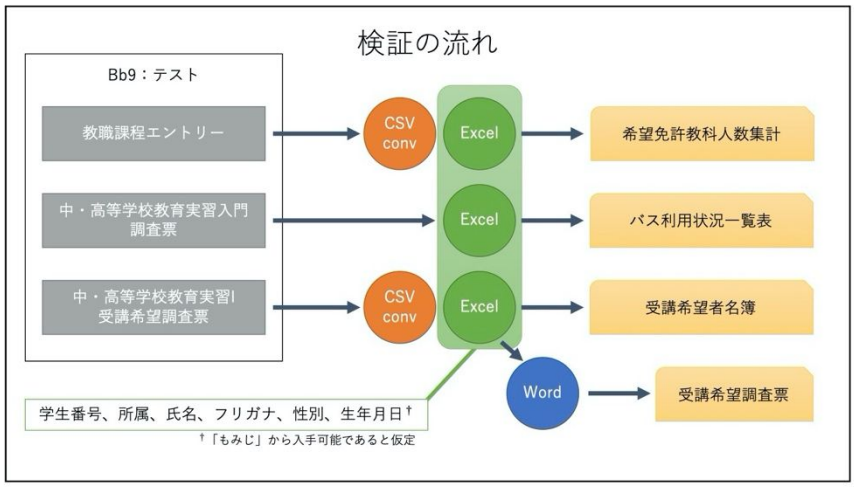
A もみじ…強固な成績管理のための教務システム
B 教員免許ポートフォリオ…広島大学独自の教員免許取得のためのポートフォリオ・システム。
C Bb9…汎用的な学習支援システム（LMS であるブラックボードを元にしたもの）。
D 学生支援室の管理する各種書類…教育実習へのエントリー用紙など紙媒体によるシステム。
E 抽出ポートフォリオ…「教職実践演習」で作成する実物によるポートフォリオ。

こうしたいくつかの役割や媒体の異なるシステムについて、全てを統合することが学生や教員、そして事務的な立場にとっての使いやすさをもたらすとは限らない。また、それぞれに役割があるが、学生にとっても教員にとっても煩雑なものとなっているのも確かである。そして、このことは島根大学においても見られた課題である。では、これらを統合する際、何を軸に統合を設計すべきか。その点に教職のためのｅポートフォリオの汎用性があると考えた。

本研究では、システムの継続性・経済性の点から、上記のシステム C（汎用的な学習支援システムである Bb9）によって、システム B、D、E の統合の可能性を追求した。またそのことで現在システム A と B が統合されていることで生じる困難を、両者を切り離すことの可能性とそのことでどのような有効性が生じるかを次の手順で確かめた（図を参照のこと）。

1)教育実習の受講に関わる情報の収集と集計作業について、Bb9 を用いて電子化可能かどうかを検証する
2)教育学部に所属する学生を検証モデルにし、以下の 3 種類の情報取得過程を検証に用いる。
ア「教職課程エントリー」
イ「中・高等学校教育実習入門調査票」
ウ「中・高等学校教育実習Ｉ受講希望調査票」
3)これらの検証には、Bb9、今回開発した CSV コンバートツール、Excel、 Word を使用する。

【図】検証の流れ



4．5　研究成果のまとめ

本研究の研究成果を研究課題にそってまとめると、次の通りである。

(1)総合大学と教員養成学部における教職カリキュラムとポートフォリオ評価の実態については、三つの大学への実地調査を通して、類型別に課題がとらえられた。

(2)総合大学におけるポートフォリオ評価を軸とした教職カリキュラムのモデルの構築については、広島大学を事例として検討を行ったが、モデルの提示にまではいたらなかった。

(3)総合大学の教師教育において有効に機能する、学生の自律と協同を中心とした汎用的な教職ポートフォリオ評価システムの開発については、専用にシステムの開発に依存せず、多くの大学で導入する汎用的な学習支援システム（LMS）を活用することで実現可能であることを確認した。

(4)汎用的な教職ポートフォリオ評価システムおよびカリキュラムの学生に対する教育効果については、電子的なポートフォリオと実物ポートフォリオとを併用することの可能性を示した。

(5)汎用的な教職ポートフォリオ評価システムが、教職カリキュラムおよび教育組織に対してどのような評価機能を持つかを検証することについては、達成することができなかった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 森田愛子，間瀬茂夫，吉田成章他	４．巻 18
２．論文標題 ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化（２）：実習系科目およびフィールドワーク等による「教育観の形成」の検討と効果検証	５．発行年 2020年
３．雑誌名 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書	６．最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15027/48934	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 間瀬茂夫	４．巻 27
２．論文標題 説明的文章の読解指導における「論理」に関する学力像の更新―中学校・高校段階を中心に―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 国語教育論叢	６．最初と最後の頁 172-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 間瀬茂夫	４．巻 50
２．論文標題 「論理：に関する知識と学力観の更新を	５．発行年 2019年
３．雑誌名 広島大学附属中・高等学校国語科研究紀要	６．最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大坂遊・川口広美・草原和博	４．巻 26
２．論文標題 どのように現職教師から教師教育者へ移行するのか：連続的・漸次的に移行した教師教育者に注目して	５．発行年 2020年
３．雑誌名 学校教育実践学研究	６．最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15027/49118	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 間瀬茂夫，竹下俊治，森田愛子，草原和博，吉田成章，米沢崇他	4．巻 17
2．論文標題 ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化 ： 教職科目・教育実習科目・教職実践演習の連動性と接続性をどう高めるか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書	6．最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 間瀬茂夫	4．巻 60
2．論文標題 「言葉による見方・考え方」から見た中学校・高等学校における「主体的・対話的で深い学び」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国語教育研究	6．最初と最後の頁 162-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 間瀬茂夫	4．巻 543
2．論文標題 国語科における学習者の言語行為の質的把握と授業づくり	5．発行年 2017年
3．雑誌名 月刊国語教育研究	6．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 間瀬茂夫	4．巻 819
2．論文標題 学力の三要素にもとづく教育改革と国語学力形成	5．発行年 2018年
3．雑誌名 教育科学国語教育	6．最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 竹下　俊治・草原　和博・間瀬　茂夫・森田　愛子・吉田　成章・米沢　崇	4．巻 16
2．論文標題 ポートフォリオ評価を基軸とした，大学における教職課程の改革に関する研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書	6．最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/45426	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山崎敬人	4．巻 66
2．論文標題 理科教師の養成を担う教師教育者に求められること	5．発行年 2017年
3．雑誌名 理科の教育	6．最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉田成章、赤星まゆみ、山本ベバリーアン、高橋洋行	4．巻 66
2．論文標題 EU諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向	5．発行年 2017年
3．雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要　第三部（教育人間科学関連領域）	6．最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉田成章	4．巻 24
2．論文標題 現代ドイツにおけるカリキュラム改革―教育の自由はどのように守られているか―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 学校教育実践学研究	6．最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 高旗浩志	4．巻 813
2．論文標題 教室に「わからない」と言える支持的風土を　―主体的・対話的で深い学びを実現するために	5．発行年 2017年
3．雑誌名 教育時報	6．最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高旗浩志	4．巻 58
2．論文標題 授業見学・授業研究会のすすめ　―学習指導観・授業観を確立するために	5．発行年 2017年
3．雑誌名 看護教育	6．最初と最後の頁 518-524
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 草原和博	4．巻 なし
2．論文標題 見方・考え方を働かせる社会科授業づくりを支援する	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東京書籍・東書教育シリーズ 「見方・考え方」を活用した授業実践 ~現行学習指導要領の教科書を使って~	6．最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 吉田成章
2．発表標題 現代ドイツのカリキュラム改革―教育の自由はどのように守られているか―
3．学会等名 日本カリキュラム学会第28回大会課題研究Ⅱ
4．発表年 2017年

１．発表者名 Nariakira Yoshida, Maria Hallitzky, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Emi Kinoshita,Christian Herfter, Johanna Leicht, Karla Spendrin
２．発表標題 Individualism and Collectivism in Classes. Comparative Analysis of Lessons in Germany and Japan
３．学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 草原和博
２．発表標題 The Impact of the Humanities and Social Sciences Discussing Germany and Japan
３．学会等名 広島大学・ドイツ研究振興協会(DFG)日本代表部共催公開サテライトシンポジウム ，広島大学（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 草原和博
２．発表標題 目標と問いに基づいて「見方・考え方」を使いこなす-社会科の分化・分科傾向に向き合うために-
３．学会等名 社会系教科教育学会第 29 回研究発表大会(シンポジウム)，京都教育大学（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

広島大学教育ヴィジョン研究センター http://evri.hiroshima-u.ac.jp 広島大学教職実践演習・教員免許ポートフォリオ https://home.hiroshima-u.ac.jp/eport/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高旗　浩志 (Takahata Hiroshi) (20284135)	岡山大学・教師教育開発センター・教授 (15301)	
研究分担者	森田　愛子 (Morita Aiko) (20403909)	広島大学・教育学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	米沢　崇 (Yonezawa Takashi) (20569222)	広島大学・教育学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	山崎　敬人 (Yamasaki Takato) (40284145)	広島大学・教育学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	草原　和博 (Kusahara Kazuhiro) (40294269)	広島大学・教育学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	吉田　成章 (Yoshida Nariakira) (70514313)	広島大学・教育学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	藤中　透 (Fujinaka Toru) (90190058)	広島大学・教育学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	竹下　俊治 (Takeshita Shunji) (90236456)	広島大学・教育学研究科・教授 (15401)	